

電気自動車ベンチャーの米テスラ・モーターズ社が好調な業績； 苦境のフィスカー社と明暗分ける¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

米国の電気自動車 (EV) メーカー、テスラ・モーターズ (Tesla Motors) 社が先月下旬、エネルギー省 (DOE) から借り入れた総額 4 億 5180 万ドル (約 443 億円²) のローンを 9 年前倒しで完済したことが話題になっている。

創業 10 年のテスラは、2010 年に株式を公開し、2013 年第 1 四半期に初めて黒字を計上したばかりの EV ベンチャー企業である。昨年発売した新型車の「モデル S」は価格が 7 万 2400 ドル (約 711 万円) と高価だが、今年第 1 四半期の北米での販売台数は 4,750 台と、同時期のメルセデス・ベンツや BMW を上回った。5 月に入ってテスラの株価は急伸し、会社の時価総額は一時イタリアのフィアットを上回る 88 億ドル (約 8,640 億円) に達した。順調な業績を受け、同社は最近、高速充電ステーション網の全米展開に着手している。

テスラの事例は、オバマ政権にとって自らのグリーンエネルギー政策の象徴的存在となりそうだ。昨年の大統領選挙期間中、DOE による融資の失敗例³が税金のむだ遣いとして槍玉に挙げられただけに、テスラの「成功」でそうした批判に一矢報いた格好となる。

一方、やはり DOE のローンを受けながら、深刻な経営困難に陥っている自動車メーカーがある。高級プラグイン・ハイブリッド (PHV) スポーツカー、「カルマ」を製造・販売している米フィスカー・オートモーティブ (Fisker Automotive) 社だ。同社はテスラと同じエコカー・ベンチャーとして期待が高かったが、最近になって経営状態が悪化。2013 年 4 月には従業員の 75% を解雇し、破産手続きに関する助言を法律事務所から受けた。

フィスカーの場合、いくつかの不運が重なった。同社のカルマは米 A123 Systems 社のリチウムイオン (Li-ion) 電池を採用していたが、その A123 が 2012 年 10 月に破産。電池パックの供給が停止し、年末にカルマの生産と出荷も止まった。その後も電池パックの周辺部品などで不具合が相次ぎ、そのたびにリコールを余儀なくされた。さらに、天災も追い

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² 6 月 10 日現在の為替レート (1 ドル=98 円) による。本文中、以降の換算も同様。

³ 過去 2 年間に、ソーラーパネルメーカーの Solyndra 社と電池メーカーの A123 Systems 社が、DOE の融資を受けながら経営破綻した。

討ちをかけている。同年 10 月、米国東部を襲った大型台風「サンディ」によってニューヨーク港の倉庫が浸水し、輸送途中のカルマ約 300 台が被害を被った。

ちなみに、日本でも三菱自動車と同様の「不運」に直面している。同社は、今年 3 月に「アウトランダーPHEV」、「アイ・ミーブ (EV)」などに搭載した Li-ion 電池の不具合が発覚した問題で、6 月 4 日、対象車のリコールを国土交通省に届け出た。たまたま同じメーカーの Li-ion 電池を使用したボーイング 787 機の運航停止問題と時期が重なったことも、大きな痛手となっている。

テスラとフィスカーは EV と PHV という違いこそあれ、米国の高級エコカー・ベンチャーという点では共通する部分も多い。運以外に両社の明暗を分けた要因は何なのか。双方の販売戦略を比較・検証してみる必要があるようだ。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp